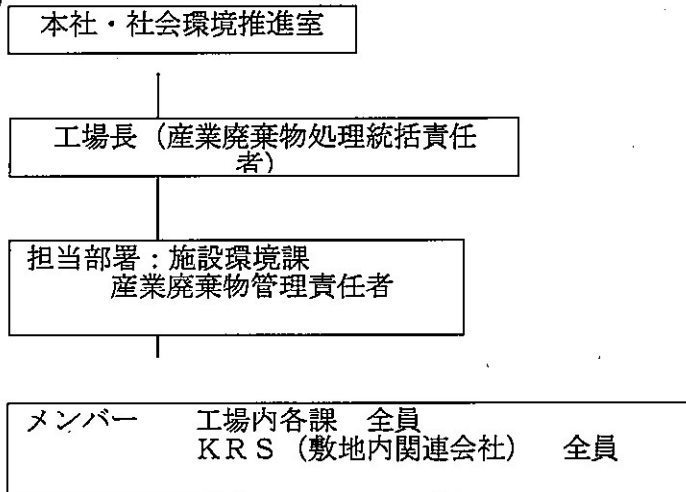


（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
令和4年6月21日	
豊田市長殿	
<div>第 53-36 号 受 -5.6.21 付 豊田市廃棄物対策課</div>	提出者 住 所 豊田市日南町 2丁目1番地 氏 名 キューピー株式会社 挙母工場 工場長 上釜 利雄 電話番号 0565-32-3311
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	キューピー株式会社 挙母工場
事業場の所在地	豊田市日南町2丁目1番地
計画期間	2024年04月01日～2024年03月31日 3
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09 食品製造業
②事業の規模	令和4年度 製品出荷額 71億9600万円
③従業員数	151名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・廃水汚泥：脱水・乾燥（自社）→再生処理業者→肥料化・汚泥：再生処理業者→肥料化・動植物性残渣：再生処理業者→肥料化・飼料化・廃プラスチック類：再生処理業者→再資源化（RPF燃料）・金属類：再生処理業者→金属再利用・ガラス：再生処理業者→ガラス原料として再利用・廃油、混載物：破碎・選別処理業者→埋立

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

1 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	別紙表1参照		
	排出量	t	t
(これまでに実施した取組) ・凍結分離し、油層は有価へ ・製造ラインの安定稼働 ・良品廃棄金額5%削減活動			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	100 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・製造量減少由来の廃水負荷低下による汚泥排出抑制 ・製造量減少による廃棄クリーム廃棄量減少		

産業廃棄物の分別に関する事項

1 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック、金属、ガラス類はそれぞれに分別し、保管
------	---

②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現場内不要物の細分化による有価物化
-----	---

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
自ら再生利用は行っておりません			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	排水汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.00 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	2,422.87 t	t
	(これまでに実施した取組) ・自社脱水機及び乾燥機にて減量化		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	排水汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.00 t	t

		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	1940.00 t	t
		(今後実施する予定の取組) 負荷の低下に伴い汚泥の引抜き量を抑制し廃棄量減を図る		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t		t
	(これまでに実施した取組)			
	埋め立て処分はしておりません			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t		t
	(今後実施する予定の取組)			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（令和4年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	全処理委託量	t		t
	別紙表2-1 参照	者へ	t	t
		の 処理委託量		
		再生利用業者へ の 処理委託量	t	t

		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
		(これまでに実施した取組) ・ゼロエミッションを達成し、再生利用を進めてまいります		

(第5面)

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類			
	全処理委託量	t	t	
	優先認定処理業者への処理委託量	t	t	
	別紙表 2-2 参照			
	再生利用業者への処理委託量	t	t	
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	
		(今後実施する予定の取組) ・工場内設備撤去に伴う廃棄物は可能な限り細分化を行い有価化を図ります		
※事務処理欄				

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

【産業廃棄物の抑制に関する事項】

表1. 産業廃棄物に係る現状及び将来目標

廃棄物の種類	現状	将来目標
	令和 4年度	令和 5年度
汚泥	2,574.00	2,000.00
動植物性残渣	141.18	50.00
廃プラスチック	80.08	40.00
その他(ガラス・金属・廃油)	1.06	50.00
合計	2,796.32	2,140.00

表2-1 現状

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラスチック
全処理委託量	150.76	141.18	80.08
優良認定処理業者への 処理委託量	0.00	0.00	103.23
再生利用業者への 処理委託	150.76	163.34	116.50
認定熱回収業者の 処理委託	0.00	0.00	0.00
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00	0.00	0.00

表2-2 目標

産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラスチック
全処理委託量	100.00	50.00	40.00
優良認定処理業者への 処理委託量	0.00	0.00	32.00
再生利用業者への 処理委託	100.00	50.00	40.00
認定熱回収業者の 処理委託	0.00	0.00	0.00
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.00	0.00	0.00